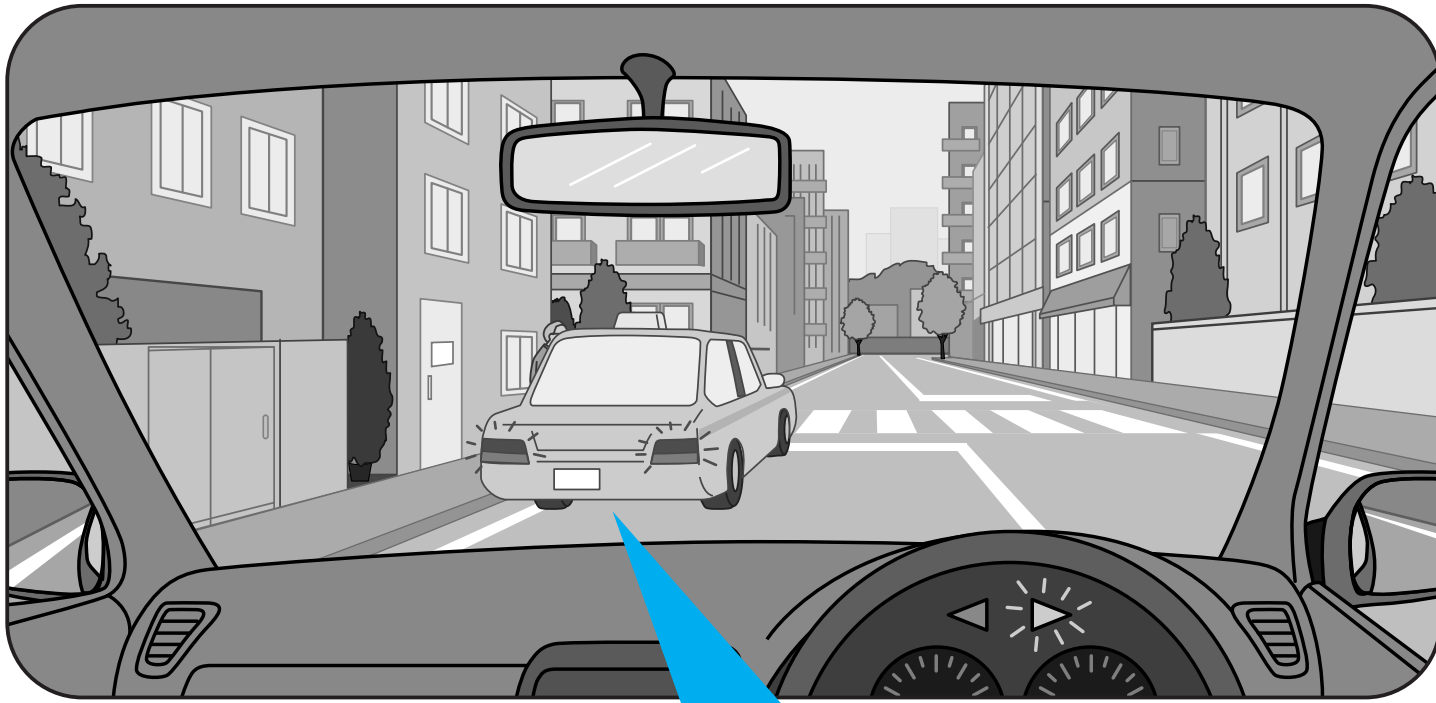


危険予測トレーニング(KYT) —危険感受性を育てる

第41回 横断歩道の手前に車両が停車している時 (四輪車編)

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、横断歩道の手前に停車車両がいる時の危険について考えてもらうためのKYTです。



活用方法

- ① 少人数のグループをつくります。
- ② 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
- ③ その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト(カラー・A4版)」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード(無料)できます。

ホンダ SJ

検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業(株) 安全運転普及本部
TEL: 03 (5412) 1736
E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

前方を走っているタクシーが停車したので、あなたはタクシーを追い越そうとしています。停車したタクシーの先には横断歩道があります。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

©本田技研工業(株)

指導者ファイル 22

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。



岩手県奥州市交通安全教育専門員の皆さん
中館淑子さん(写真左)、小野寺理奈さん(写真右)

幼児の視覚に訴える新たな教材を創り出す

奥州市は平成18年に5市町村が合併して誕生した岩手県内陸南部に位置する都市である。同市の交通安全教育は交通安全教育専門員の中館淑子さん、小野寺理奈さんと、94名の交通指導員が担っている。平成25年は幼児、小・中学生、高齢者などを中心に234回、約1万7000人を対象に交通安全教室を開催した。

幼稚園・保育園での交通安全教室は年2回が基本となっていて、第1回目はパネルなどの視覚教材で交通ルールの基礎学習を、第2回目はミニ信号機などを活用した体験型の歩行実技学習を実施。道路や交差点を渡る時の安全行動を身につけてもらえるように指導している。また、第3回目以降は、追加指導を希望する幼稚園等に死角・内輪差実験や衝突実験など様々な学習メニューの中から選択してもらい、対応している。

「幼児に対しては視覚に訴える教材の役割は重要だと考えています。幼稚園・保育園は3年が1つのサイクルとなりますから、3年間の中で同じ教材は使いません。子どもたちも敏感で、新たにつく

ったものには高い関心を示してくれるのです」と、中館さんと小野寺さんは伝える内容が同じでも見せ方を変えていくこ

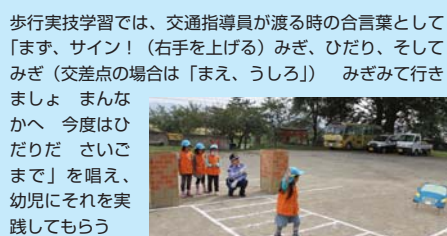
との必要性を話す。「子どもたちが自発的に参加したいと思えるように心がけています」。

★幼稚園・保育園での交通安全教室

中館さんと小野寺さんは Honda の交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」のイラストをアレンジして、幼児にわかりやすく伝えるように工夫



交差点を渡る時は「みぎ、ひだり」だけでなく「まえ、うしろ」(右左折して交差点に進入する車両がいないか)も自分の目でしっかり確認することを強調



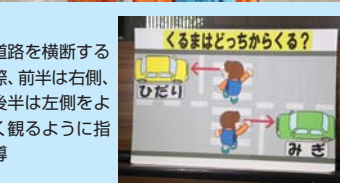
歩行実技学習では、交通指導員が渡る時の合言葉として「ます、サイン！(右手を上げる)みぎ、ひだり、そしてみぎ(交差点の場合は「まえ、うしろ) みぎみて行きましよ まんなかへ 今度はひだりだ さいごまで」を唱え、幼児にそれを実践してもらう

★幼稚園・保育園での室内学習の時に使用する教材

プラスチック段ボールでつくったバス。コンパクトに折りたためるようになっている。バスを降車後、道路への飛び出しが危険であることを伝えるために使う



指導者の皆さんの活動を動画で紹介
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>



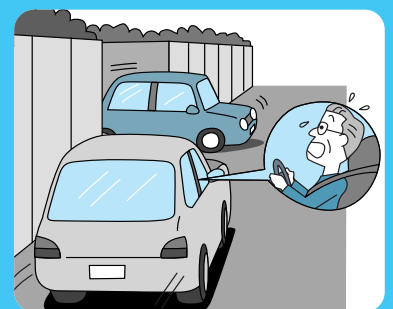
道路を横断する際、前半は右側、後半は左側をよく観るように指導



チャイルドシートの重要性を示すためのもの。チャイルドシートを台車に固定して簡単な衝突実験を行う

SJクイズ ?

- Q1 平成25年の高齢者(65歳以上)の交通事故負傷者数を状態別にみると、最も多いのは自動車乗車中ですが、その割合は約何%でしょう？
- ①約35% ②約45%
③約55% ④約65%



- Q2 平成16～25年の全人身事故件数に占める四輪運転者(第1当事者・特殊車、ミニカーを除く)の運転操作不適事故の割合を年齢層別にみると、最も高いのは次のどの年齢層でしょう？
- ①24歳以下 ②25～34歳
③65～74歳 ④75歳以上

- Q3 75歳以上の四輪運転者の運転操作不適事故で不適の形態が最も多いは次のうちどれでしょう？
- ①ハンドル操作不適
②ペダル踏み間違い
③ブレーキ操作不適

※「解答」は8面下。「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

©本田技研工業(株)